

環境報告書2010

東港金属株式会社



東港金属株式会社は 創業108年を迎えました。

環境への負荷が少なく
信頼性の高い中間処理を実施して
循環型社会形成に貢献してまいります



環境報告書対象組織

この環境報告書は、
東港金属株式会社(本社・本社工場、千葉工場、東京事務所)と、
協力会社、トライマテリアル株式会社の運輸部門を範囲と
しました。

対象期間

当社の第65期(2009年7月～2010年6月)をまとめた
ものです。
報告内容には一部第66期を含みます

準拠、参考ガイドライン

この環境報告書は
環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」
を参考にして作成いたしました。

発行 2010年11月



目次

東港金属株式会社について	3
ごあいさつ	5
経営理念	6
環境方針	7
事業活動における環境負荷の全体像	8
中期環境保全計画（負荷低減への取り組み）	9
マネジメント体制（環境&情報セキュリティ）	11
リサイクルフロー（本社工場&千葉工場）	13
環境への取り組み	16
教育・コミュニケーション	18
協力会社の活動	19
法的及びその他の要求事項と取り組み	21
ガイドライン対照表	22



編集方針

東港金属株式会社は当社の環境に関する考え方と取り組み姿勢を中心とした業務内容そのままを定期的に報告することにより、ステークホルダーの皆様の良きリサイクルパートナーとして、事業活動の透明性、信頼性を評価、ご理解いただきたく、環境報告書を作成いたしております。お気づきになりましたことなど、ご指摘ご指導賜りたくお願い申し上げます。

発行4年目を迎える本年は、東京における産業廃棄物処理業者の第三者評価制度で「産廃エキスパート」認定を取得、また環境マネジメントシステム、情報セキュリティマネジメントシステム認定についての情報を紹介するとともに、本社工場に産業廃棄物選別ラインを導入しましたので、最新のリサイクル処理システムを紹介しております。

ホームページ

<http://www.tokometal.co.jp/>

環境報告書

2007年(2007年12月)

<http://www.tokometal.co.jp/ems-isms/env-report/2007.pdf>

2008年(2008年12月)

<http://www.tokometal.co.jp/ems-isms/env-report/2008.pdf>

2009年(2009年12月)

<http://www.tokometal.co.jp/ems-isms/env-report/2009.pdf>

お問い合わせ先

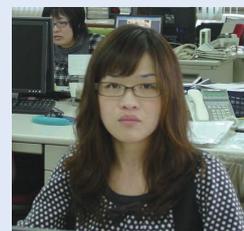
東港金属株式会社 経営企画室
〒105-0014

東京都港区芝2-7-2 芝園ビル4F

TEL:03-5730-0880(代表)

FAX:03-5730-0440

Eメール:info@tokometal.co.jp



東港金属株式会社について

■会社概要

社 名 東港金属株式会社 Toko Metal Co.Ltd
 代 表 者 代表取締役社長 福田 隆
 創 立 1902年(明治35年)7月
 資 本 金 10,000万円
 従業員数 70名(2010年6月末日)
 年 商 56億円(2010年6月期)
 事 業 所 本社、本社工場、千葉工場、東京事務所
 協力会社 トライマテリアル株式会社

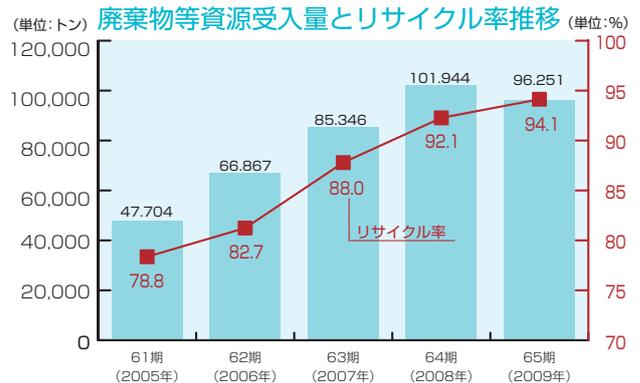
■許可・認定

- * 古物商
- * 産業廃棄物中間処理許可
 【東京都 第13-20-018874号】
 【千葉県 第12-20-018874号】
- * 産業廃棄物収集運搬及び積替・保管許可
 【東京都第13-10-018874号】
- * 産業廃棄物収集運搬許可
 神奈川県横浜市・川崎市・横須賀市、埼玉県、千葉県、千葉市、他
- * 東京都 産廃エキスパート認定
- * 第1種フロン類回収業登録
- * ISO27001認証 本社・本社工場、千葉工場、東京事務所
- * ISO14001認証 本社・本社工場、千葉工場、
 トライマテリアル(株)本社営業所

■事業概要

- * 金属スクラップ全般に関する業務(国内/輸出入)
- * プラスチックの各種リサイクル
- * 産業廃棄物の収集、運搬及び中間処理業、リサイクル
- * その他

■売上・受入れ量・リサイクル率の実績



沿革

1902年(明治35年)

創業者福田勝西が、東京市神田に
伸銅品と非鉄金属地金の問屋を開業、
終戦後、店を芝金杉に移す



創業時の福田商店



創業時の古物商許可証

1947年(昭和22年)

会社組織にし、製品の間屋業を株式会社福田地銅店が担い
地金の問屋業を東港金属株式会社が扱う事となった

1960年(昭和35年)

東京精錬株式会社を設立、銅合金の精錬及びインゴット製造を行なう

1978年(昭和53年)

栗山铸造株式会社及び株式会社アイアイデーの両社を合併し、東京
精錬株式会社の社名を東京銅基合金工業株式会社と商号変更した



昭和53年 東京銅基合金工業株式会社

1994年(平成 6 年)

産業廃棄物収集運搬業の許可取得
産業廃棄物中間処理業の許可取得

1997年(平成 9 年)

精錬部門と営業部門を一体化し、東港金属株式会社が
東京銅基合金工業株式会社を吸収合併し、東港金属株式会社となる

2002年(平成14年)

東京都とエコトライ協定を締結

2003年(平成15年)

本社第二ヤードを開設

2006年(平成18年)

EMS(ISO14001)認証取得

2007年(平成19年)

東京都港区芝に東京事務所を開設し、営業部門及び事務部門の一部を移転する

2007年(平成19年)

千葉県富津市に千葉工場を開設

2008年(平成20年)

本社第三ヤードを開設

2009年(平成21年)

千葉工場が産業廃棄物中間処理の許可取得
本社・本社工場、千葉工場、東京事務所で、ISMS(ISO27001)を
認証取得
千葉工場をEMS(ISO14001)認証範囲に拡大登録



千葉工場

2010年(平成22年)

東京都 産廃エキスパート認定
本社事務所を新事務棟に移転
本社工場に産廃選別ライン導入



本社事務所



選別ライン

ごあいさつ

社会から感謝される都市型総合リサイクラーを目指し

身近なリサイクルパートナーとして 資源の有効利用を促進してまいります



代表取締役
President

福田 隆
Takashi Fukuda

東港金属株式会社は、再来年の2012年に創業110年を迎えます。これもひとえにお客様をはじめ多くの関係者のお陰と感謝しております。これからも社会から感謝される都市型総合リサイクラーとして、出来る限り高いリサイクル率をお客様に提供し、資源枯渇をガードするため一段の努力を続けて参ります。

当社の100年余は一貫して鉄、非鉄金属の回収処理の効率を上げるための改善努力の連続でございました。一步一步新しい経験と処理設備の改善努力を積み重ね、リサイクル率を上げてまいりました。

本年2月には、東京都における産業廃棄物処理業者の適正処理・資源化の取組に係る優良性基準適合認定制度で「産廃エキスパート」としての認定を受けました。この制度で評価をいただいた処理事業の信頼度の高さ、環境に配慮した取組を続けるために、常に社内の体制や処理フローの見直しを行っております。

一昨年3月に稼働を開始した千葉工場のドイツ製最新シュレッダーに加え、本年6月からは、京浜島本社工場に産業廃棄物の選別ラインを導入いたしました。これにより、従来は最終処分場で埋立処分をしていた廃棄物の8割以上を再資源化できるようになる見込みです。本環境報告書の対象期間は昨年7月から本年6月末迄ですので、本報告書の実績数値には反映出来ませんが、更なるリサイクル率アップにつながってくると期待しているところです。

それに伴い、本社ヤードのレイアウトを変更し、搬入車輛のスムーズな出入りのためのスペースを広げ、安全確保と事務手続き時間の短縮を図るなど、お客様へのサービス向上に配慮いたしました。

当社は、環境保全活動を継続的に取り組むために環境方針を定め、全従業員が遵守していることを外部から検証してもらうべく、2006年7月に環境マネジメントシステムISO14001の認証を取得し、全ての部署で環境保全対策を実施しており

経営理念

お客様のお役に立つ、世界最高の総合原料リサイクルを追及し、
お客様と共に会社・従業員が発展繁栄する

【情熱・熱意・執念】で

すぐやる

必ずやる

出来るまでやる

情熱・・・激しく感情が高ぶり熟したさま

熱意・・・いちずに打ち込んでいる気持ち

執念・・・深く思い込んであきらめたり、忘れたりしない心

すなわち「熱い気持ちで仕事に打ち込み、目標達成までやり遂げる」
ことを基本として、何事も「すぐやる、必ずやる、出来るまでやる」
という実践をしていきます

ます。

その一環として、かけがえのない緑を次世代へ引き継ぐ役割を果たすため、東京湾の埋立地に苗木を植え、育てるという東京都の「緑の東京募金」に賛同して社内に呼びかけをし、社員の募金額に会社としての募金を積み重ねる取組みを実施中です。

一方、情報セキュリティへの対応としまして、保有する情報資産を保護し、利害関係者の信頼を得るセキュリティ体制の確保を目的として、昨年4月に情報セキュリティマネジメントシステムISO27001を認証取得しました。社会的にも情報セキュリティの必要性がますます重要視されてきております。当社はお客様の利益と社会全体の情報セキュリティを推進することが、重要な顧客サービスであり、お客様がかけがえのないパートナーとして安心して当社をご利用いただけるように、従業員が一丸となって情報セキュリティマネジメントシステムを実施、推進してまいります。

今、世界中が継続的発展のためにあらゆる資源を求めております。必要資源が当たり前に入手できるとの予測は突然崩れるかもしれません。循環型社会形成基本法が公布されてから10年が経ちました。国も、地方公共団体も、事業者も、そして国民も、循環型社会を形成するためにそれぞれの責務を担って歩いておりますが、限りある天然資源を有効活用していくためには、中間処理業者としての当社の使命はさらに重要になると感じております。

当社は当社の事業活動そのものが地球資源を循環させていくための重大な任務を担っておりますことに誇りと責任を持ち、日本に昔から根付いている「物を大切にする習慣」、「もったいない」の心をお客様から受け止め「受入量の拡大」を行動指針に入れて、循環型社会形成にむけ、これからも感謝される都市型総合リサイクラーを目指し邁進して参ります。

環境方針



東港金属株式会社は、資源循環型社会の一翼を担う金属加工処理業ならびに産業廃棄物の収集運搬及び中間処理業等の事業を通じて環境負荷の少ないリサイクルに正面から取り組み、社会に貢献できる企業を目指し、従業員が一人となり環境保全対策を実施し、地球環境保全のために尽くします。

1. 当社の事業活動、製品及びサービスに関わる環境側面を常に認識し、汚染の予防に努めるとともに環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。
2. 当社の環境側面に関係して環境保全水準の向上を図るために自主基準を設け、決めた要求事項を順守します。
3. 当社が行う事業活動、製品及びサービスが環境に与える影響の中で、以下の項目について重点テーマとして改善活動を推進します。

重点テーマ

- (1) 取扱商品の入荷量を拡大することにより、資源のリサイクル率向上を目指し天然資源の枯渇の抑制に貢献するとともに、最終処分量の削減に努めます。
- (2) 千葉工場のシュレッダー業務の効率化を図り、処理量拡大を図ります。
- (3) 各種車輛、重機等に使用する燃料の削減を図り、地球温暖化と化石燃料資源の枯渇の抑制に努めます。
- (4) 工場内のプラント設備、事務所の照明・空調等に使用する電力使用量の削減を図り、地球温暖化と化石燃料資源の枯渇抑制に努めます。
- (5) 資源の有効活用のため、コピー用紙使用量の削減に努めます。

2010年7月1日
東港金属株式会社
代表取締役 福田 隆



事業活動における環境負荷の全体像



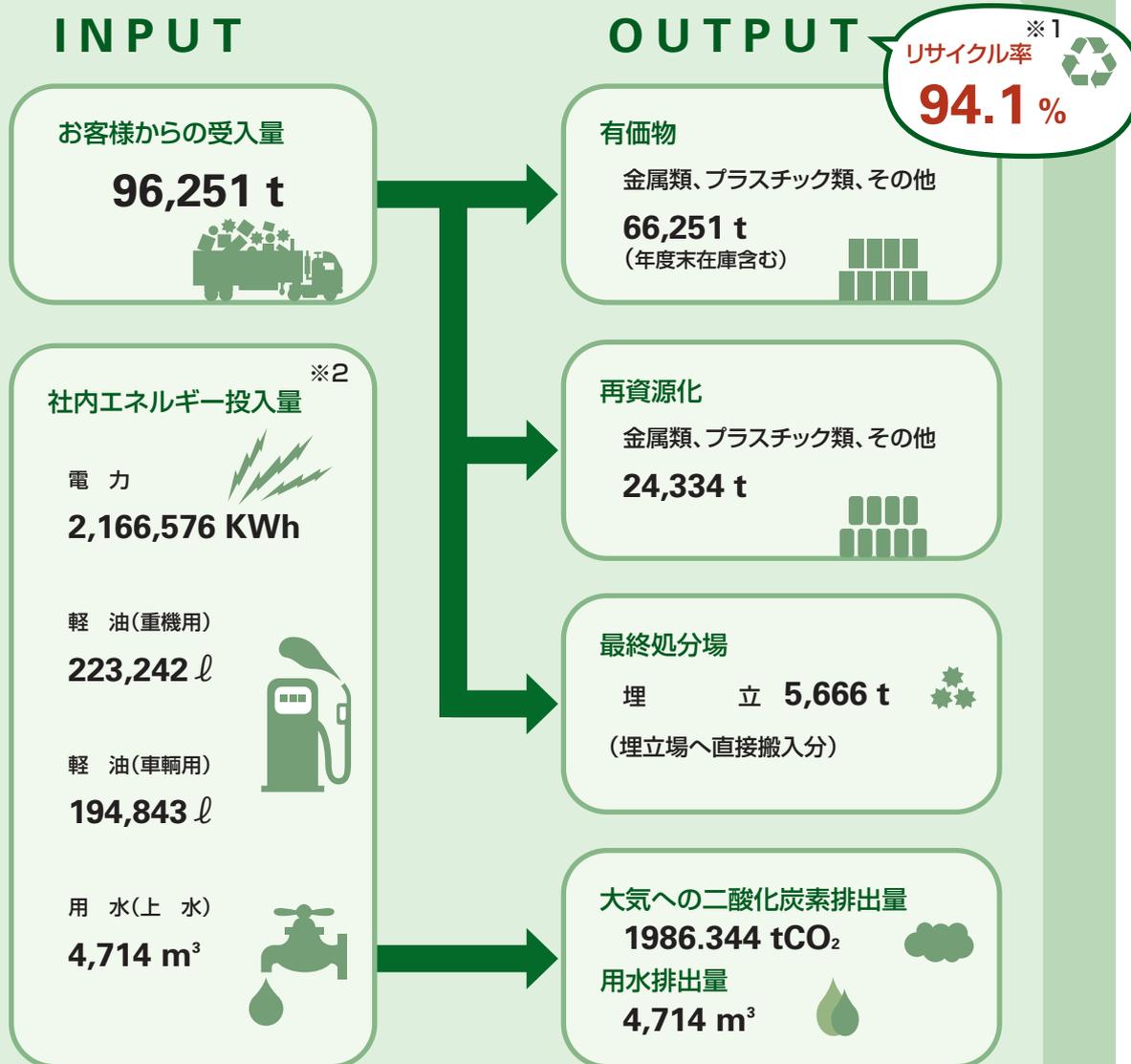
マテリアルバランス報告

当社事業においては、常に資源のリサイクル率や、再資源化の向上を図るための活動を行いますが、一方、活動における環境負荷として、電力や燃料などの各種エネルギーの消費に伴う温室効果ガスの排出があります。

作業効率の向上や工程改善をすることで、環境影響を低減させる努力を続けて参ります。

第65期(2009年7月～2010年6月)の主な環境負荷は下図の通りです。

インプット、アウトプットの集計範囲：本社及び千葉工場



二酸化炭素排出量計算根拠:

温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル(平成22年9月 環境省・経済産業省発行)よりCO₂排出量(tCO₂)算出計算式を用いました。

燃料の使用 = 燃料使用量(kℓ)×単位発熱量(軽油)37.7(GJ/kℓ)×排出係数0.0187(tC/GJ)×44/12

電気の使用 = 電気使用量(kwh)×東京電力排出係数0.000418(tCO₂/kwh)

※1 リサイクル率 = [(受入量－埋立量)÷受入量]×100%

※2 社内エネルギー投入量は、ISO14001適用範囲である協力会社トライマテリアル株式会社の投入量を含みます。

中期環境保全計画



負荷低減への取組み

当社は、事業活動、製品及びサービスが環境に与える影響の中で、環境保全計画として、省エネ・省資源、効率向上の達成すべき目標を設定しております。

このページではISO14001の65期環境目標・年度環境実行計画に基づくデータを掲載いたしました。

65期は前期に引き続き目標をクリアできました。

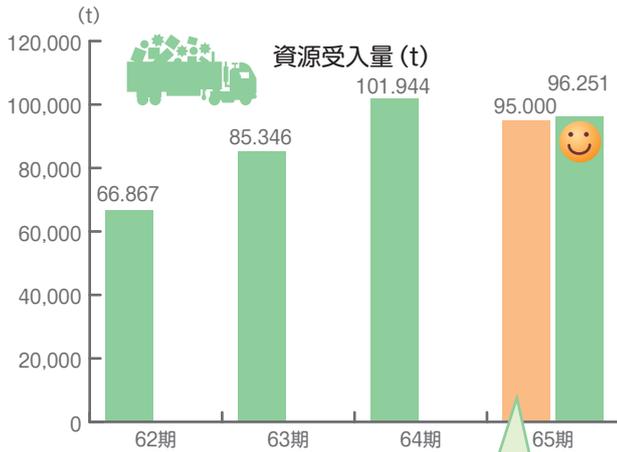
部門	65 期 目 標		年度末目標	結果数値	達成度
	推 進 項 目	施 策			
本 社 工 場 千 葉 工 場	資源受入量の拡大	(1)仕入れ価格の適正化 (2)商品の在庫期間圧縮 (処理能力向上) (3)受入ヤードの整備 (処理能力向上) (4)仕入先の拡大 (顧客拡大)	95,000t/年の達成	96,251t	対目標値よりも更に1.3%の拡大達成
	最終処分量の削減 リサイクル率(%)= [(受入量(t)-埋立量(t))/受入量(t)] ×100	(1)サーマルリサイクル処分 先の拡大(最終処分の削減) (2)選別ラインの導入 (3)客先への選別徹底の提案 (4)再生処理品の拡大	年度末 93.0%の達成	94.1%	対目標値よりも1.1ポイントのリサイクル率向上
	コピー用紙使用量削減 コピー用紙使用量原単位= コピー用紙購入枚数(枚)/ [製品入荷量(千t)+出荷量(千t)]	裏紙の使用徹底 不要資料の作成削減 配布資料及び配布先の適正化 メール・電子化の推進 棚卸し不用品資料の活用	年度末 1,500枚/千tの達成	1,465枚/千t	対目標値よりも更に2.3%の削減達成
本 社 工 場	燃料使用量削減 (運搬車輛) 燃料使用量原単位= 燃料使用量(ℓ)/[製品入荷量(千t) +出荷量(千t)]	(1)アイドリングストップの励行 (2)アクセルの吹かし過ぎ防止 (3)効率的な積み降ろし・運搬 (4)車輛の定期点検・整備	対64期 (858ℓ/千t)の5%削減 ↓ 年度末814ℓ/千tの達成	774ℓ/千t	対目標値よりも更に4.9%の削減達成
	燃料使用量削減 (重機車輛) 燃料使用量原単位= 燃料使用量(ℓ)/[製品入荷量(千t) +出荷量(千t)]	(1)アイドリングストップの励行 (2)アクセルの吹かし過ぎ防止 (3)効率的な積み降ろし・運搬 (4)車輛の定期点検・整備	対64期 (1,212ℓ/千t)の5%削減 ↓ 年度末1,151ℓ/千tの達成	1,086ℓ/千t	対目標値よりも更に5.6%の削減達成
千 葉 工 場	電力使用量の削減	(1)破碎機の効率的運転 投入量拡大⇔破碎機負荷に低減 (2)定期的メンテナンスの実施 (3)最適投入量の把握	64期実績 60.0Kwh/t ↓ 年度末58.5Kwh/tの達成	57.07kwh/千t	対目標値よりも更に2.4%の削減達成
	シュレッダー業務の効率化 時間当たりの処理量拡大	(1)破碎機の効率的運転 (2)投入コンベヤーの速度制御	65期は目標値設定のための準備期間とし、 下記項目を実施する。 (1)データ取り方法の検討 (2)システムの導入検討、及び導入 (3)条件検討、設定		



主な推進項目の予実績及びエネルギー投入量実績の推移

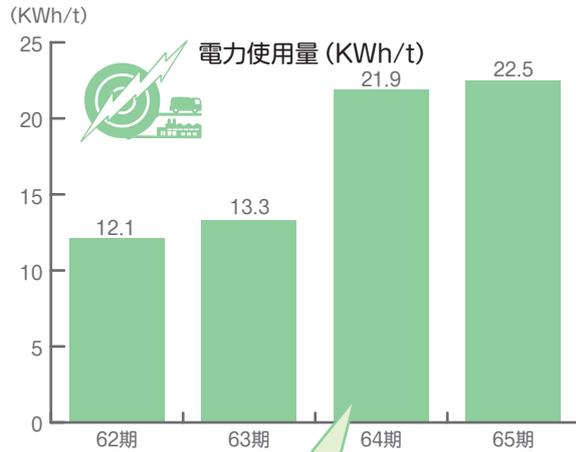
目標達成 😊 目標 ■
実績 ■

主な推進項目の予実績

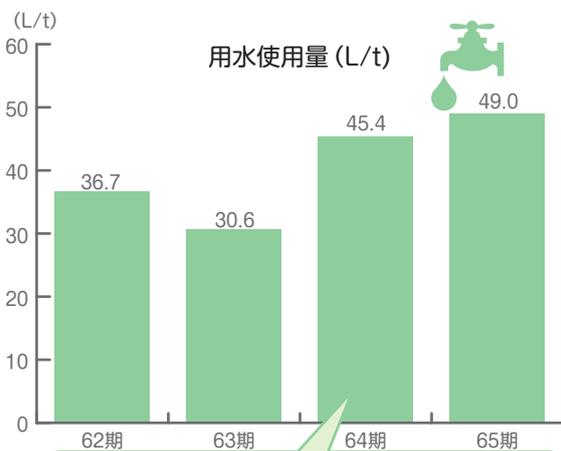
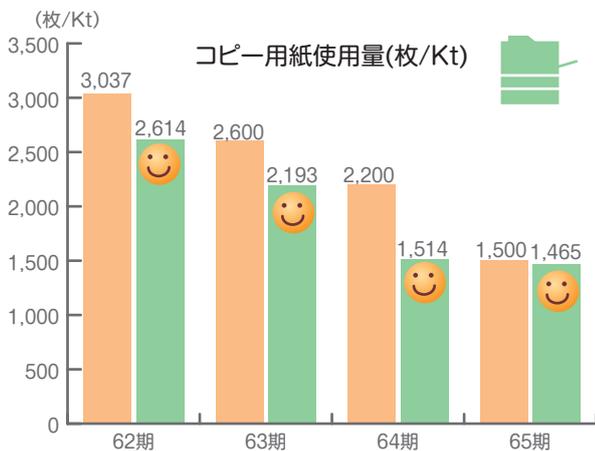
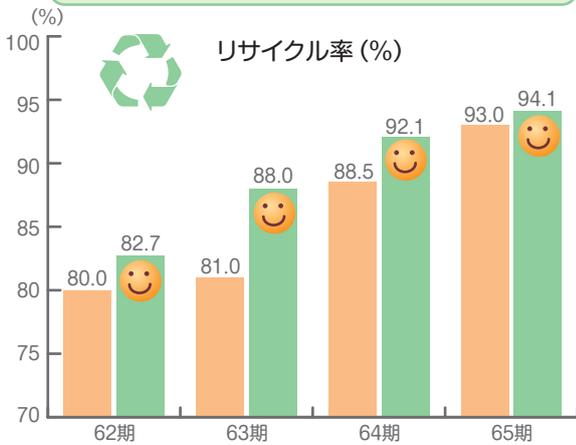


64期までは産業廃棄物を除く受入品目で目標量を設定しておりましたが、65期からは産業廃棄物も含む全品目の総受入量で目標を設定しました。このグラフは全品目の総受入量を表示しております。

全社エネルギー投入量の実績



64期からの千葉工場稼働にともない、電力使用量の原単位 (使用量 (KWh) を資源受入量 (t) で除した値) が上昇しました。



64期からの千葉工場稼働にともない、用水使用量の原単位 (使用量 (L) を資源受入量 (t) で除した値) が上昇しました。

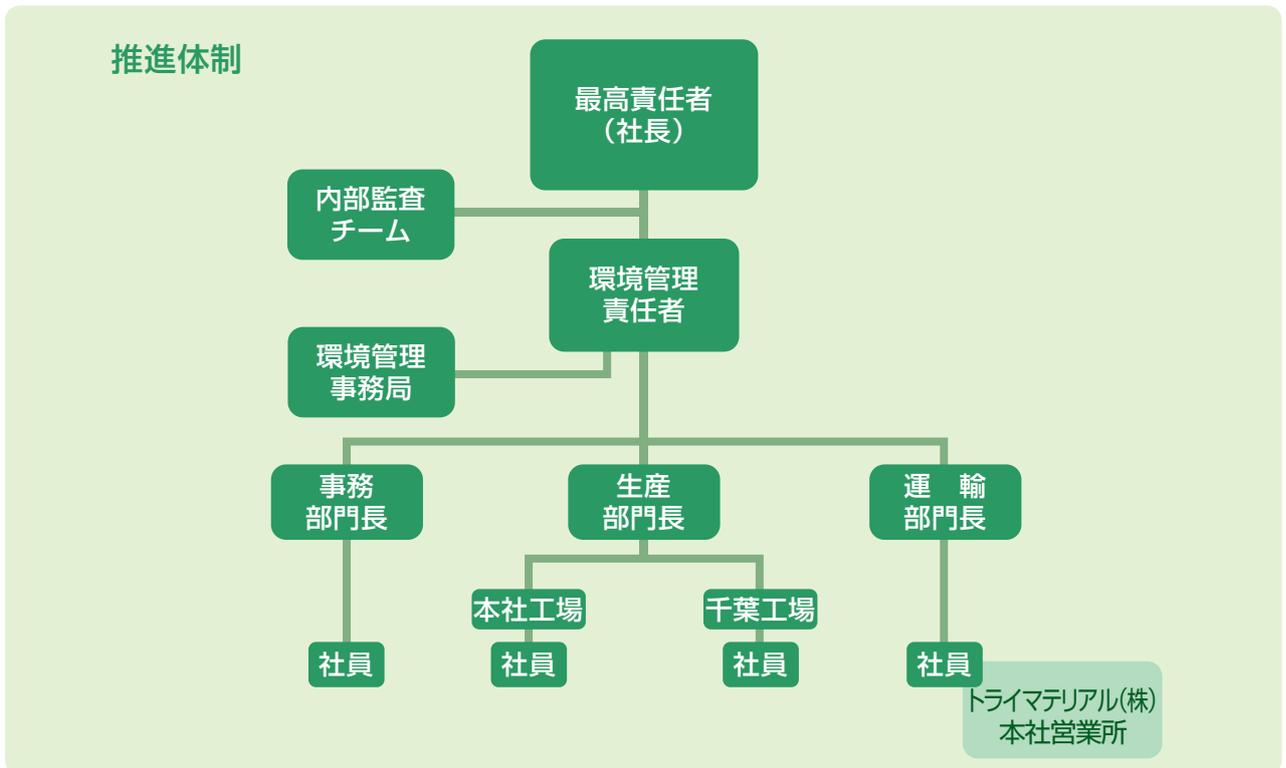
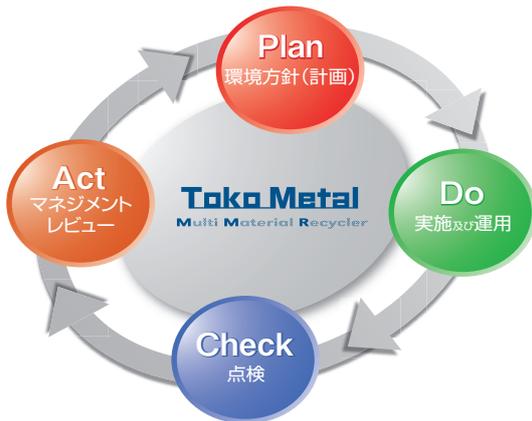
マネジメント体制



環境マネジメント体制

当社は、企業としての事業活動が環境に及ぼす影響を最小限に食い止め、改善に取り組むために、社長をトップとした環境マネジメント体制を組織し、環境マネジメントシステム ISO 14001 の認証を取得しております。

Plan-Do-Check-Act により事業活動と関連する環境法規を明確にして、確実な順守に努めており、継続的な改善を目指しています。



環境の継続的改善を目指して 2006 年 6 月に認証取得した ISO14001 は 4 年を経過しました。

従業員の環境保全意識も身につけてきており、本年のサーベイランス審査は著しく重大な環境マネジメントシステムの改善指摘事項もなく、7 月 21 日に認証更新いたしました。

その環境方針に基づく行動指針を全従業員が常に認識し、事業活動、製品及びサービスに関わる環境側面の継続的改善を図るとともに、適用可能な法的要求事項、及び自主的に受入を決めたその他の要求事項を順守するために自主基準を設け、管理し、環境保全水準の向上を図ってまいります。

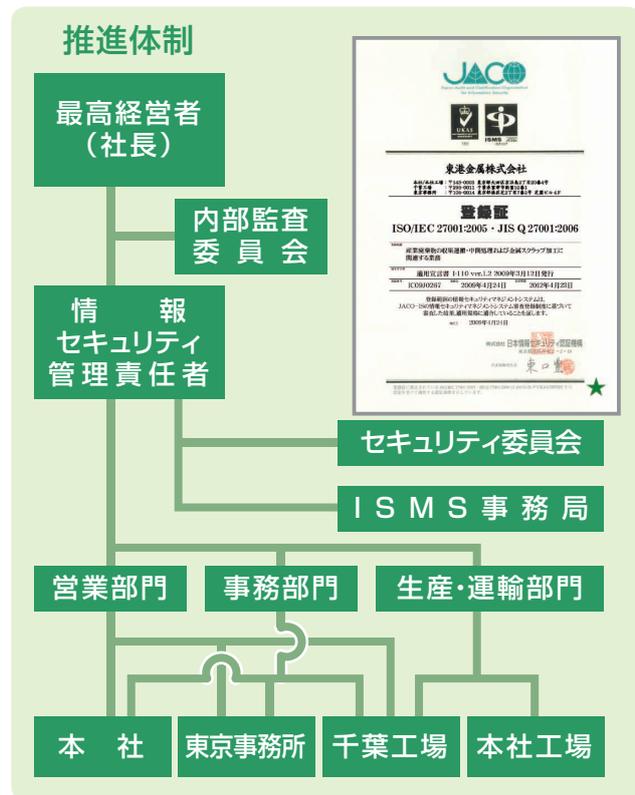


情報セキュリティマネジメントシステム

当社は、2009年4月に「情報セキュリティマネジメントシステム」ISO27001の認証取得をいたしました。本年は1年次定期サーベイランスを受け、登録継続承認をいただいております。

当社は事業を進めていく上で、顧客情報・顧客資産・従業員個人情報の保護の責務を果たすため「個人情報の保護に関する法律（個人情報保護法）」に対応し、情報セキュリティマネジメントシステム（以下ISMS）規格に準拠するマネジメントシステムの構築、維持の、Plan-Do-Check-Actのプロセスを通じて、保有する全ての情報資産に対してリスクを評価し、そのリスクに応じて、対策を実行しております。

社会的にも情報セキュリティの必要性がますます重要視されてきております。当社はお客様の利益と社会全体の情報セキュリティを推進することが、重要な顧客サービスであり、お客様がかけがえのないパートナーとして、安心して当社をご利用いただけるよう、従業員が一丸となってISMSを実施、推進してまいります。



情報セキュリティ基本方針

1. 目的と活動の原則

東港金属株式会社は、金属加工処理業ならびに産業廃棄物の収集運搬及び中間処理業等の事業を進めていく上で、顧客情報や処理を受託した機器の記録部の中に含まれている情報等の重要情報を保有している。

一方、事業の拡大に伴う本社事務所とヤード、他事業所、事務所等との情報伝達経路の多様化により、情報の漏洩、改ざん、センター機器や情報伝達経路の不具合による事業活動の遅滞や停止等の潜在的なリスクを有している。

情報セキュリティマネジメントシステム（以下ISMS）規格に準拠するISMSの構築、維持のPDCAプロセスを通じて、これらのリスクに対応する仕組みを確立することが当社の重要な顧客サービスとなることを認識し、従業員が一丸となりISMSを実施し、顧客及び当社の継続的な事業発展のために、ここに情報セキュリティ基本方針を制定する。

2. 法令・規程・規則

顧客情報・顧客資産・従業員個人情報の保護の責務を果たすため法的要求事項、及び自主的に受入を決めたその他の要求事項を順守、管理する。

3. ISMS 組織体制の確立

事業の変化とそれに伴うリスクの変化に対して適切に対処するために、情報セキュリティ管理責任者を任命し、その下にセキュリティ委員会とISMS事務局を設ける。

また、ISMSのPDCAプロセスが適切に機能していることを評価する内部監査組織を設置する。

情報セキュリティ管理責任者とISMS事務局は、当社のISMS全般に亘る管理、運営を行う。

4. リスクへの対応

顧客情報と会計販売情報の機密性を最重要視する。これら情報の漏洩は当社の信頼性を著しく損ない、悪用されれば当社の事業継続に重大な影響を及ぼすと考えられる。

また、これら情報が集積しているサーバとその伝達経路の不具合は、業務遂行上の重大なリスクであり、完全性と可用性を考慮する。

なお、リスクマネジメントは、客観的に体系化され、重要なリスクを有効に見出す仕組みとして、継続的に見直しを行なえるものとする。

2008年12月1日
東港金属株式会社
代表取締役 福田 隆



リサイクルフロー

本社工場リサイクルフロー

多品目の取り扱いと徹底した選別で、出来る限り資源として循環することを目指しております。

1. 収集運搬 / 搬入

従来、種類別・マテリアル別に専門業者に振り分けて搬入していた廃棄物、混合物、有価金属などを、窓口ひとつでの受入が可能です。



平ボディ車



台貫

3. 破碎

最新鋭高速切断機〔ギロチンシャー〕の導入をはじめ、複数の破碎機やジャンボプレスベラー、天井クレーンを刷新し、作業効率と処理スピードの向上を実現させ、さらに、ヤード内のレイアウトに配慮し、作業のオートメーション化を実現しました。



ギロチンシャー



破碎機

5. 圧縮 / 梱包

鉄、ステンレス、銅、アルミ、プラスチック、基板、その他をそれぞれ圧縮梱包していきます。



ベラー



プレス機



再生プラ原料 (PET)



アルミ

2. 分別 / 解体

大型廃棄物から鉄と非鉄、プラスチックまで分解・選別することができるマルチ解体機や大型磁力選別機と手作業により徹底した分解、仕分けを行います。



パソコン/OA 機器の手解体



マルチ解体機での解体

4. 選別



選別機

比重の違いを利用した振動型選別機と2系列の手選別コンベアラインにより、高精度の選別を行います。

6. 適正処理

マテリアルリサイクル及びサーマルリサイクル向けの原料化を可能な限り促進し、リサイクル率の向上と適正処理を実現しております。

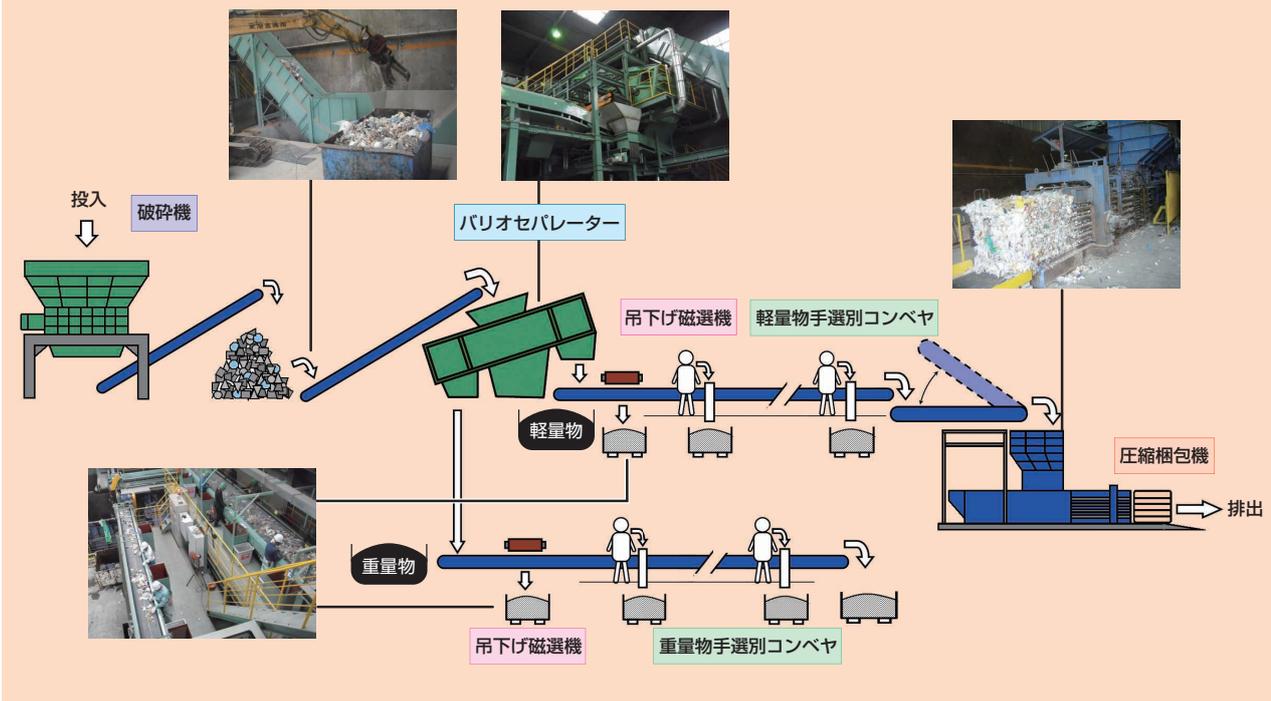
(例 プラスチックフレーク、プラスチック燃料、木くずチップ、銅系再生合金原料、電線ナゲット銅、再生銅原料、紙原料、カレットなど)



本社工場・新選別ライン導入

本年6月、リサイクル率の向上を図る目的で、本社工場に選別ラインを導入いたしました。振動型選別機と人手選別を組み合わせ、混合廃棄物を効率的に、マテリアルリサイクル用（素材原料向け）とサーマルリサイクル用（燃料用途）とに選別し、最終処分への搬入量を極限まで減らします。

選別ラインフロー図



埋立廃棄物ゼロをめざして努力しています

当社ではお客様から搬入された産業廃棄物を破碎や切断、圧縮等の中間処理をして最終処分場に送っていますが、今回導入されたバリオセパレーターは素材を細かく選別することが出来るので、大幅にリサイクル率をあげられます。

営業としても、この選別ラインは環境保全に貢献できるうれしい情報としてお客様へご紹介できます。



営業部：長谷川 武史

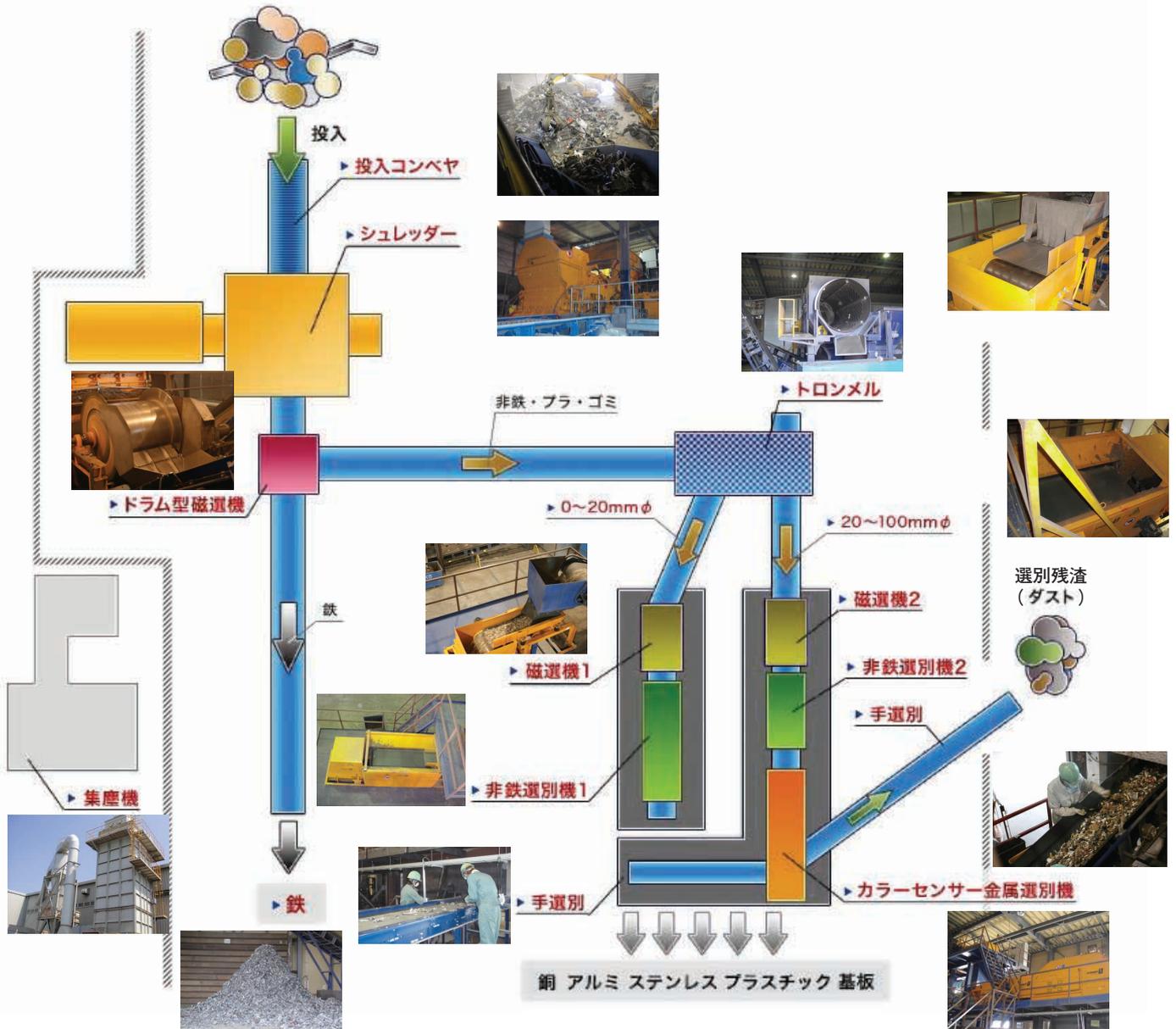




千葉工場 破碎・選別工程フロー

千葉工場のリサイクルフローでは、破碎と選別工程に最新鋭の設備を導入しております。

破碎には1千馬力のシュレッダーを導入し、シュレッダーで破碎した後は、磁選機・カラー選別機・手選別により、鉄・各非鉄・その他に選別し、後工程の圧縮梱包/適正処理の工程に移ります。



設備仕様

設備名	製作会社国名	処理能力、特性等 (カタログより)
シュレッダー	ドイツ	30t/ H、千馬力の大型破碎機
トロンメル	日本	0～20mmφ、20～100mmφと100mmφ以上を分離する、円筒型の回転ふるい装置
ドラム型磁選機	ドイツ	磁力により混合物の中から鉄を分離する磁力選別機形状や
磁選機	ドイツ	取り付け方により名称が変わる
非鉄選別機	ドイツ	鉄と非鉄を分離するために渦電流を利用した選別機
カラーセンサー金属選別機	ドイツ	対象物の色を取り込み素材を特定して選別する装置
集塵機	日本	電気式と濾布式の組合せ型

環境への取り組み



産廃エキスパート認定取得 (東京都の第三者評価制度)

当社は、平成21年10月に東京都が全国で初めて創設した、産業廃棄物処理業者の第三者評価制度において中間処理業と収集運搬業〔積替え保管を含む〕で、第1回産廃エキスパートの認定を取得いたしました。

第三者評価制度の主な評価内容は以下の通りです。

- 1) 法の遵守状況に関する「遵法性」
- 2) 安定的で信頼性の高い事業運営を行っているかどうかの「安定性」
- 3) 環境に配慮した取組みをしているかどうかの「先進的な取組み」

この制度の趣旨を真摯に受け止め、排出事業者の皆様から信頼される業界のトップランナーとして努力してまいります。

制度の概要

産業廃棄物処理業者の任意の申請に基づき、適正処理、資源化及び環境に与える負荷の少ない取組を行っている優良な業者を、第三者評価機関として都が指定した(財)東京都環境整備公社が評価・認定する制度。

制度のねらい

- 健全な産業廃棄物処理・リサイクルビジネスの発展
- 優良な処理業者の育成と適正処理の推進
- 排出事業者に信頼できる処理業者情報の提供

制度の特徴

1. 産業廃棄物処理業者の事業内容や取組の状況に対応し、2つの基準に適合した業者を認定
 - (1) 産廃エキスパート(第一種評価基準適合業者)
業界のトップランナー的業者
 - (2) 産廃プロフェッショナル(第二種評価基準適合業者)
業界の中核的役割を担う優良業者
2. 処理事業の信頼度の高さ、環境に配慮したより高度な取組を総合的に評価(書面審査・現地審査)
 - (1) 遵法性 (2) 安定性 (3) 先進的な項目
3. 第三者機関である(財)東京都環境整備公社が評価委員会を設置し、公平・公正に評価・認定
4. 分かりやすい独自の認定ロゴマーク

中間処理業



収集運搬業



緑の東京募金に参画しています

当社は、環境保全活動の一環として、「10年後の東京」の施策として、「水と緑の回廊で包まれた、美しいまち東京を復活させる」ことを第一の柱に掲げている東京都のプロジェクト「緑の東京募金」に賛同し、社内に募金箱を設置いたしました。

募金は当社のマッチングギフトの形式として「東京都を緑の街にして、次の世代に引き継ごう」を社員に周知するとともに、主旨に賛同されたお客様にも参加をお願いしております。

年度末には集計し、その募金額に会社の寄付を加えて、東京都に送ることにしております。

募金の使い道としては、

- ① 海の森の整備
- ② 街路樹の整備
- ③ 校庭芝生化
- ④ 花粉の少ない森づくり



があり、希望の緑化事業を選択できるようになっておりますので、京浜島に本社がある当社としては、①海の森の整備を指定する予定です。

環境調査をしています

当社は環境方針に則り、事業活動、製品及びサービスに関わる環境側面を常に認識し、汚染の予防に努めるため、本社工場と千葉工場で、業務に伴って発生する騒音・振動・悪臭・粉じんと、構内から排出される雨水中の含有物質を自主的に測定しております。今事業期の測定では自主基準値内でした。

今後とも環境保全水準の向上を図るために小さな問題点も見逃さず処置対応をして、周辺環境の保全に努めてまいります。環境調査結果概要版はホームページに公開いたしております。



特定フロン回収をしています

当社は、東京都にフロン回収業者として登録をし、産業廃棄物として搬入された業務用のエアコンや冷蔵庫の中に入っている冷媒用フロンを適正に回収し、破壊処理業者に引き渡しております。大気中に放出されるとオゾン層破壊や地球温暖化などを起こす一因となるフロンを正しく処理することで、フロン回収・破壊法に対応して参ります。





5S 活動成果をあげています

職場環境の維持、作業効率向上、そして社員全体の意識向上を図ることを目的に、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）活動を推進中です。

具体的なアクションは、5S 委員が中心となって隔週のミーティングで現状を把握し、改善策を講じておりますが、整理整頓が習慣として根付きはじめてきました。現在は情報セキュリティの考え方に基づいて、事務所書庫内の保存書類の整理整頓をすすめており、スタッフの意識レベルは向上しています。



グリーン購入でも環境配慮をしています

社内の物品調達については、共有使用できるものや、リユースできるものの再使用をすすめ、品質や価格だけでなく、グリーン購入の考えに則した環境負荷低減に資する製品を積極的に使用することとしております。



防災訓練

安全がすべての作業に優先しますので、毎日の朝礼で意識づけをしております。

特に地震、火災等緊急時対応に備えて、本社工場、千葉工場共に初期消火活動、応急救護を含めた防災訓練を実施しています。





環境教育

社内における従業員の安全・衛生を自らが管理し、お互いに気持ちよく、安心して仕事ができるように、安全衛生委員会と、全員参加の職場安全衛生会議を定期的開催し、問題の掘り出しと対策を講じる事で皆が同じ意識を共有できるようにしています。



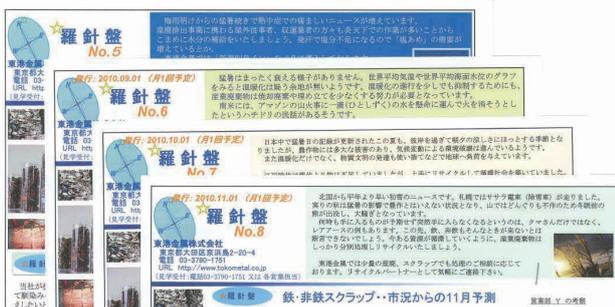
資格取得を奨励しています（業務知識取得と安全作業のために）

従業員が其々の担当業務をこなしていく上で必要な知識や技能習得のために資格取得を奨励しております。

資格区分	人数	資格区分	人数
産廃中間処理施設技術管理者	1	運行管理者	2
破碎リサイクル施設技術管理士	2	冷媒回収	3
「PCB 廃棄物の収集運搬従事者講習会」終了	1	救命技能	5
「特管産廃の許可申請に関する講習会」修了	3	粉塵作業	2
「産廃の許可申請に関する講習会」修了	7	EMS 内部監査員	2
「産業廃棄物処理業者講習会」受講	6	ISMS 内部監査員	1
大型運転免許	12	公害防止管理者大気第 1 種	1
大型特殊	7	公害防止管理者水質第 1 種	1
ユニボ	27	危険物取扱者甲種	4
フォークリフト	34	安全管理者	1
小型移動クレーン	17	安全衛生推進者	1
牽引	3	衛生管理者	1
玉掛技能講習	23	整備管理者	1
高所作業クレーン	2	防火管理者	1
床上操作クレーン	1	電気工事士	2
5t 未満クレーン	11	機械製図作業 2 級	1
天井クレーン	1	建築士 2 級	1
ガス溶接	7	セーフティインストラクター	1
アーク溶接	6	ダイオキシニンストラクター	1

「羅針盤」発行

産業廃棄物処理業界の相場状況及び改正された法律の内容紹介などの参考情報や東港金属のトピックスを「羅針盤」というニュース紙として毎月発行しています。この情報はそのままホームページにも掲載中です。



月間 MVP 表彰

当社では、その月々の作業姿勢やマナーなど担当職務に優れたメンバーを上司が推薦し、月間 MVP として表彰し、各人が仕事への意欲と誇りを持てるような職場づくりを目指しております。





山本社長

トライマテリアル株式会社の紹介

トライマテリアル株式会社は、東港金属関連の輸送業務及び産業廃棄物の収集運搬を請け負う協力会社として、平成 18 年（2006 年）に創業いたしました。

安全確実をモットーにして、多様なお客様の要望に沿った 24 時間対も可能にいたしております。

また、取り扱い品目と収集可能エリアを拡充した収運事業を続けており、本年 2 月には東京都における産業廃棄物処理業者の第三者評価制度において、業界の中核的役割を担う優良業者である産廃プロフェッショナル（第二種評価基準適合業者）の認定を取得いたしました。

今後とも全従業員が安全を第一に、そして周囲の生活環境保全を意識した ECO ドライブを心がけることをめざして、皆様のお役にたつ会社として事業を進めてまいります。

会社概要

社 名 トライマテリアル株式会社
 代 表 者 代表取締役社長 山本 兼嗣
 設 立 2006 年（平成 18 年）1 月
 資 本 金 1,000 万円
 従業員数 18 名（2009 年 12 月末日現在）
 年 商 約 3 億円（2009 年 12 月期）
 事 務 所 本社（東京都港区芝 2-7-2 芝園ビル 4 階）
 本社営業所（東京都大田区京浜島 2-20-4）
<http://www.trimaterial.co.jp/>
 主な取引先 東港金属株式会社

事業内容

- * 鉄鋼、ステンレス、プラスチック、アルミニウム、銅等非鉄金属製品及びスクラップの加工処理並びに売買
- * 産業廃棄物及び一般廃棄物の収集運搬業
- * 廃プラスチックのリサイクル事業
- * 一般貨物自動車運送事業
- * 貨物運送取扱事業
- * 軽油及びガソリン販売業
- * 労働者派遣法に基づく特定労働者派遣事業



沿 革

- 2006年(平成18年)1月 東京都中央区に一般貨物自動車運送事業、産業廃棄物収集運搬業及び特定労働者派遣事業を目的として設立
 東京都大田区京浜島に東京営業所を設立
- 3月 特定労働者派遣事業許可
 6月 一般貨物自動車運送事業許可
 7月 各地の産業廃棄物収集運搬業許可取得開始
- 2008年(平成20年)3月 東京都港区に本社移転
- 2010年(平成22年)2月 東京都の優良性基準適合認定制度で「産廃プロフェッショナル」の認定取得

東京都の優良性基準適合認定制度で

「産廃プロフェッショナル」の認定を受けました。



東京都の優良性基準適合認定制度とは、平成 21 年 10 月に都が全国で初めて創設した、産業廃棄物処理業者の第三者評価制度。産業廃棄物処理業者の任意の申請に基づき、適正処理、資源化及び環境に与える負荷の少ない取組を行っている優良な業者を、第三者評価機関として都が指定した（財）東京都環境整備公社が評価・認定する制度です。

今回、トライマテリアルは 2010 年 02 月 10 日付で、収集運搬の区分で、トップランナー的業者であるとして「産廃プロフェッショナル」の認定を受けました。

Topics

9 月度月間 MVP 表彰

ベストドライバー



横山忠紀

与えられた仕事を
一生懸命自分なりに
やっています。

ヤードの荷降し
担当機械のメンテ
安全作業

東港金属株式会社と同様に、毎月に班長がベストドライバーを選出し表彰しております。

社員資格一覧表

資格区分	人数
「特管産廃の許可申請に関する講習会」修了	2
「産廃の許可申請に関する講習会」修了	1
「産業廃棄物処理業者講習会」受講	1
大型運転免許	18
大型特殊	1
車両系建設機械	10
フォークリフト	18
小型移動クレーン	10
牽引	6
玉掛技能講習	11
5t未満クレーン	1
移動式クレーン	2
ガス溶接	3
EMS 内部監査員	1
危険物取扱者	1
安全管理者	1
衛生管理者	1
救命技師	1
整備管理者	1
防火管理者	1
セーフティインストラクター	1

収集運搬可能エリア（東港金属と協力会社トライマテリアル）

産業廃棄物・特別管理産業廃棄物収集運搬業許可保有品目(H22.6.30現在)

	岩手県	盛岡市	福島県	郡山市	いわき市	栃木県	宇都宮市	群馬県	前橋市	茨城県	埼玉県	さいたま市	川越市	東京都	千葉県	千葉市	船橋市	柏市	神奈川県	横浜市	川崎市	横須賀市	相模原市	長野県	長野市	静岡県	静岡市
汚泥						○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
廃油						●	●	○	○	●	○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
廃酸						○	○	○	○		○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
廃アルカリ						○	○	○	○		○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
廃プラスチック類	●	●	○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
紙くず	●	○	○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
木くず	●	○	○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
繊維くず	●	○	○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
動植物性残渣						○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ゴムくず						○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
金属くず	●	●	○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ガラスくず、 コンクリートくず 及び陶磁器くず	●	●	○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
がれき類	●	○	○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
産業廃棄物 特別管理																											
廃酸 PH 2.0 以下														○	○			○		○	○		○				
廃アルカリ PH 12.5 以上														○	○			○		○	○		○				
廃石綿等														○	○			○		○	○		○				

○ トライマテリアル株式会社のみ保有 ● 東港金属株式会社のみ保有 ● 両社とも保有

法的小よびその他の要求事項

環境及び情報セキュリティの法規制で当社及びトライマテリアル株式会社に係るものは以下の通りです。
第 65 期で行政より指導・勧告を受けたものはありませんでした。

環境関連

環境側面	法、条例、等	要求事項(当社該当主要項目のみ)	主な該当施設等	主な該当部署	必用資格	
自動車運行	運搬車輛・ 自家用車	道路交通法	①自動車免許、速度制限、積載制限	運搬車輛・ 自家用車	運輸部門 営業部門	大型・ 普通免許
		NOx-PM法	①規制対応車種 ②PM減少装置の取り付け	—	運輸部門	—
[業] *廃棄物の受入 *収集運搬及び処分業	金属屑、廃プラスチック類、 ガラス・コンクリート・ 陶磁器屑、繊維屑、 木屑、紙屑、他	廃棄物処理法	①廃棄物再生業/廃棄物の収集運搬及び処分業の許可 ②廃棄物の保管施設への掲示板の設置 ③委託基準の順守 ④マニフェストの使用及び返却等の管理 ⑤廃棄物処理責任者の設置 ⑥二社契約許可番号、事業の範囲、有効期限、 処理能力、重量、単価等の記載 ⑦産廃最終処分業者の処分場視察 ⑧環境に不可を与えない施設の維持管理 ⑨資源化を推進し、最終処分量の削減 ⑩地域住民との協調	業として 被処理物の 受け入れ	全体	収集運搬業 中間処理業 古物商
[事業者] 廃棄物の排出	産業廃棄物の排出		業務全般 からの排出			
[事業者] 廃家電等電気製品の排出	特定家庭用機器廃棄物、 パソコン他	家電リサイクル法 改正リサイクル法			事務部門	—
トラックスケールの使用	トラックスケール	計量法	トラックスケール台貫計量誤差検定 1回/2年 検査	トラックスケール (20t-40t-50t)	生産部門	—
火災の発生	指定可燃物	消防法	指定可燃物貯蔵量調査	工場棟及び 工場内設備	生産部門	—
フロン類の回収	業務用空調機・ 業務用冷蔵庫から フロン回収	フロン回収破壊法	東京都知事による登録	フロン回収 設備等	生産部門 営業部門	第一種フロン類 回収業者登録
		改正フロン回収破壊法	適正回収、行程管理制度、引取証明書の交付			
PCB入りコンデンサの保管	PCB入り コンデンサー	PCB廃棄物特別措置法	PCB廃棄物の適正な保管 保管状況の東京都への報告	工場内倉庫	管理責任者	—
材料およびエネルギーの 使用を物品の購入時に考慮	物品の購入	グリーン購入法	グリーン調達を推進し、環境に与える負荷を軽減する	事務所	事務部門	—

情報セキュリティ関連

関連分野	法令の名称	主な参考条項	
情報保護に関する法令	日本国憲法	第21条 集会、結社及び言論、出版その他一切の表現の自由は、これを保障する。 2 検閲は、これをしてはならない。 通信の秘密は、これを侵してはならない。	
	個人情報の保護に関する法律	全般	
コンピュータ犯罪に関する法令	刑法	第7条の2 電磁的記録の定義 第157条第1項 電磁的公正証書原本不実記録罪 第158条第1項 不実記録電磁的公正証書原本共用罪 第161条の2 電磁的記録不正作出・不正作出電磁的記録供用罪 第234条の2 電子計算機損壊等業務妨害罪 第246条の2 電子計算機使用詐欺罪 第258条 公用電磁記録毀棄罪 第259条 私人電磁記録毀棄罪	
		不正アクセス行為の禁止に関する法律	全般
		労働基準法	第91条 制裁規定の制限
	労働者派遣法	第24条の4 秘密を守る義務	
知的財産権に関する法令	著作権法	第2条 定義 第10条 著作物の例示 第12条の2 データベースの著作物 第20条 同一性保持権 第47条の2 プログラムの著作物の複製物の所有者による複製等 第76条の2 創作年月日の登録 第113条 侵害とみなす行為	
		特許法	全般
		意匠法	全般
		不正競争防止法	全般
		知的財産基本法	第8条 事業者の責務
その他	特定電子メールの送信の適正化等に関する法律	全般	
	外国為替及び外国貿易法	全般	

ガイドライン対照表



環境報告書ガイドライン 2007年版における項目

掲載ページ

【基礎的情報 :BI】		
BI-1	経営責任者の緒言	5
BI-2-1	報告に当たっての基本的要件（対象組織・期間・分野）	1,2
BI-2-2	報告対象組織の範囲と環境負荷の捕捉状況	1,2
BI-3	事業の概況（経営指標を含む）	3,4
BI-4-1	主要な指標等の一覧	3,8,9,10,21
BI-4-2	事業活動における環境配慮の取組に関する目標、計画及び実績等の総括	8,9,10
BI-5	事業活動のマテリアルバランス（インプット、内部循環、アウトプット）	8
【マネジメント・パフォーマンス指標 :MPI】		
MP-1-1	事業活動における環境配慮の方針	7
MP-1-2	環境マネジメントシステムの状況	11
MP-2	環境に関する規制の遵守状況	21
MP-3	環境会計情報	—
MP-4	環境に配慮した投融資の状況	13,14,15
MP-5	サプライチェーンマネジメント等の状況	11,12,19
MP-6	グリーン購入・調達状況	17
MP-7	環境に配慮した新技術、DfE等の研究開発の状況	13,14,15
MP-8	環境に配慮した輸送に関する状況	8,9,10,19
MP-9	生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	—
MP-10	環境コミュニケーションの状況	17,18,19
MP-11	環境に関する社会貢献活動の状況	15,18
MP-12	環境負荷低減に資する製品・サービスの状況	13,14,15
【オペレーション・パフォーマンス指標 :OPI】		
OP-1	総エネルギー投入量及びその低減対策	8,9,10
OP-2	総物質投入量及びその低減対策	8,9,10
OP-3	水資源投入量及びその低減対策	8,10
OP-4	事業エリア内で循環的利用を行っている物質等	8
OP-5	総生産品生産量又は総商品販売量	3,8
OP-6	温室効果ガスの排出量及びその低減対策	8,9,10
OP-7	大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	8,9,10,16
OP-8	化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	8
OP-9	廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	3,8,9,10
OP-10	総排水量及びその低減対策	8,10
【環境効率指標 :EEI】		
	環境配慮と経営との関連状況	5,6,7,8,9,10,11,13,14,15
【社会パフォーマンス指標 :SPI】		
	社会的取組の状況	16,17,18

Toko Metal
Multi Material Recycler